



共生 外国籍住民の 居住傾向は

「私の視点」

多様性や共生が叫ばれているが、多くの日本人はこのことに疲れているのではないか。町は外国人に社会生活上のルールをよく示し、住民の安心安全に取り組むべきである。

答弁（町長） 外国籍住民の方々が増えていくと予想される

問 玉村町の外国籍の住民の人数と傾向は。

答（町長） 令和6年8月1日現在の住民基本台帳では、1528人となっている。世帯数は1096世帯である。国籍別では、38か国もの国の方々が玉村町内で暮らしている。

傾向は、人口急増が始まった平成3、4年の頃は100人程度であったが、20年前の平成17年では825人の478世帯となり、その後、平成26年の500人台を底に、10年前の平成27年には625人の337世帯となった。そして、入国管理法の改正や難民認定法等の施行、新たな在留管理制度の導入などにより、平成30年10月には1000人を超え、令和元年からは、新型コロナウイルス感染症の蔓延により増加が鈍化した^{まんえん}が、コロナ禍が落ち着き始めた令和4年頃からは増加が加速し、現在に至っている。今後も増加が予想される。

問 ごみの出し方等の問題への対応は。

答（町長） 町では外国籍住民向けに、「ごみと資源の出し方・分け方」の英語、ポルトガル語、中国語、ベトナム語版を作成し、希望のあった地区、企業、アパートの管理会社などに配布をしている。

水道水の安定供給

問 官民協働による新玉村町浄水場建設に際して、運営権を町に担保しているか。

答（上下水道課長） 運営権は町が所有し、資金調達も行う。官と民が連携して、バランスを取

りながら玉村町に合った手法を取り入れたい。

問 発がん性との関連が指摘される有機フッ素化合物「PFAS（ピーファス）」の水道原水への水質調査結果はどうであったか。

答（町長） 使用している水源7か所のうち、井戸の深度によって検出される割合が異なるため、検出度の高い浅井戸の第10水源で今年の5月に調査を行った。その結果の数値は、検出下限値（100万分の5mg/L）未満で計測することができなかったことから、不検出であった。

こんな質問もしています

・オリンピックで活躍できる選手を育む運動施設の設置について



更新が予定される玉村町浄水場



歴史 新たに玉村町誌 の発行を！！

「私の視点」

現行の玉村町誌は発行から40年近く経過したものもある。当時と比較し町は大きく変化し、歴史的に新しい発見もあったと思う。新たに町誌の発行に取り組むべきだ。

答弁（教育長） 発行の機に備え、できる限りの準備を行う

問 現行の玉村町誌は、昭和61年(1986年)に町誌編さん準備委員会が立ち上がり、昭和の終わりから平成の前期にかけて通史編の上巻、下巻と別巻9巻が発行された。発行してから40年近く経過したものもある。

当時と比較し人口は増え、玉村大橋、伊勢玉大橋ができ、国道354号も開通し、文化センター周辺には住宅団地もでき、道の駅もできた。産業形態も大きく変わった。歴史的に新しい発見もあったと思う。この時期に町誌を発行することは、大いに意義があると感じる。町はどのように考えるか。

答（教育長） 町民の皆さんが暮らしていく地域に愛着を持ち、さらには、その地域の歴史・文化に関心と誇りを持っていただくことは極めて重要なことと考える。

また、未来を担う子供たちに地域の歴史・文化に触れ合う機会を提供し、その価値を認識させながら郷土愛を育てていく必要がある。そういった観点からも、町誌を編さんする意義は非常に大きいと考える。

しかしながら、町誌編さん事業となると、町全体で取り組むべき非常に大きな仕事となり、担当職員の人材育成、専門家の配置など、全庁での横断的な組織体制の構築も不可欠であり、広く町民の皆さんのご理解を得る必要もある。

通史編の発行から29年、最後の町誌発行となる別巻IX「玉村町の石造物」から19年が経過し、町の歴史は新たに書き加えるべき発見や

出来事が積み重なってきている。

埋蔵文化財資料に関しては、発掘調査が行われる際に計画的に調査報告書を発行し、歴史資料に関しては、所在調査や資料の収集・保管・整理作業を地道に行っているところである。現時点において重要なことは、町誌編さんの種となる資料の散逸を防ぎながら、次期の町誌編さん事業の機が熟すときに備え、現体制の中で、できる限りの準備を行っていくことであると考えている。

こんな質問もしています

・総合防災マップに掲載されている、カスリーン台風の際に落橋したとされる岩倉橋の写真は適切か
・町内の古建築の保存について



通史編上巻・下巻・そして別巻9巻
合計11巻からなる玉村町誌

